

麻しん（はしか）患者の発生について

横浜市内の医療機関からはしかを疑う患者について連絡があり、市衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、本日はしか陽性であることが確定しました。なお、感染経路は調査中です。

保健所が患者の行動や接触者について調査したところ、周囲へ感染させる可能性のある時期に、下記の公共交通機関を利用していたことが判明しました。

当該公共交通機関を同じ時間帯に利用された方で、利用後10日前後経ってから、はしかを疑う症状（別紙）が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡の上、指示に従い受診してください。また、移動の際は、周囲への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

【感染可能期間内に患者が利用した交通機関】

令和7年3月6日（木）

●横浜市営バス 326系統

午前8時12分 神明社入口乗車 → 午前8時21分 片倉町駅前下車

●横浜市営バス 36系統

午前9時30分～午前10時10分頃 片倉町駅前乗車 → 神明社入口下車

※各公共交通機関へのお問合せは御遠慮ください。

現時点において、はしか患者が利用した交通機関等を利用しても心配はありません。

患者の概要：30歳代 女性 予防接種歴：なし
経過等：3月6日 発症日（発熱）
3月8日 咳嗽、咽頭痛出現
3月10日 発しん出現
3月11日 市内医療機関受診
3月12日 はしか診断・届出
3月13日 市衛生研究所が実施した遺伝子検査ではしか陽性判明

【はしか発生動向（本件を含まず）】 ※1 令和7年3月11日時点 ※2 令和5～6年暫定値（国立感染症研究所）

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
横浜市	40	0	0	1	0	0	2 ^{※1}
全国	744	10	6	6	28 ^{※2}	45 ^{※2}	9 ^{※1}

 [件]

接触者が特定できており、不特定多数が感染する可能性が低いと見られるため、個別の発表をしていない事例も含まれます。

【市民の皆様へのお願い】

- 2回の予防接種を受けた方、過去に感染したことがある方は、免疫を獲得しているため、はしかの発症を予防できるとされています。
- 母子手帳などで接種歴を確認し、小学生以上の方で2回接種をしていない場合は、ワクチンを接種することをお勧めします。
- 定期接種の対象となる1歳と小学校入学前（年長児）の方は、接種期間に適切に予防接種を受けましょう。

【お願い】

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

お問合せ先

横浜市保健所健康安全課長

赤松 智子

Tel 045-671-2442

麻疹(はしか)について

- 麻疹ウイルスによる感染症で、非常に感染力が強く、抗体がない人が感染するとほぼ100%発症します。
- 麻疹は、一度かかった人及び2回の予防接種により十分な免疫をもっている人は、発病する心配はないと言われています。

主な症状

- ・感染すると10～12日間の潜伏期間を経て、発熱、咳、鼻水など風邪のような症状が現れ、2～3日間発熱が続いた後に、39度以上の高熱と全身に赤い発疹がでます。
- ・症状が出現する1日前から解熱後3日くらいまで周りの人に感染させる力があります。

感染経路

- ・空気感染、飛沫感染、接触感染でせきやくしゃみ等の飛沫からだけでなく、麻疹患者と同じ空間にいるだけで感染します。

もし麻疹患者と接触したら？

- ・麻疹患者と最後に接触した日から21日間は毎日体温を測り、健康観察をしましょう。
- ・万が一、症状が現れた場合は事前に医療機関に連絡し、医療機関の指示に従って受診してください。移動は周囲への感染を拡げないように、公共交通機関等の利用を避けてください。

麻疹の予防方法

☑ワクチン

- ・麻疹はワクチンで予防できます。母子手帳などで接種歴を確認し、小学生以上の方で2回接種をしていない場合は、ワクチンを接種することをお勧めします。
- ・麻疹風疹混合(MRワクチン)は予防接種法で定期予防接種の対象とされています。対象となる方は、接種期間に適切に予防接種を受けましょう。

➤横浜市保健所「麻疹・風疹について」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryu-fukushi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/measles.html>

※夜間、休日の医療機関案内は、#7119、かながわ救急相談センター
045-232-7119、045-523-7119(24時間・年中無休)にご相談ください。